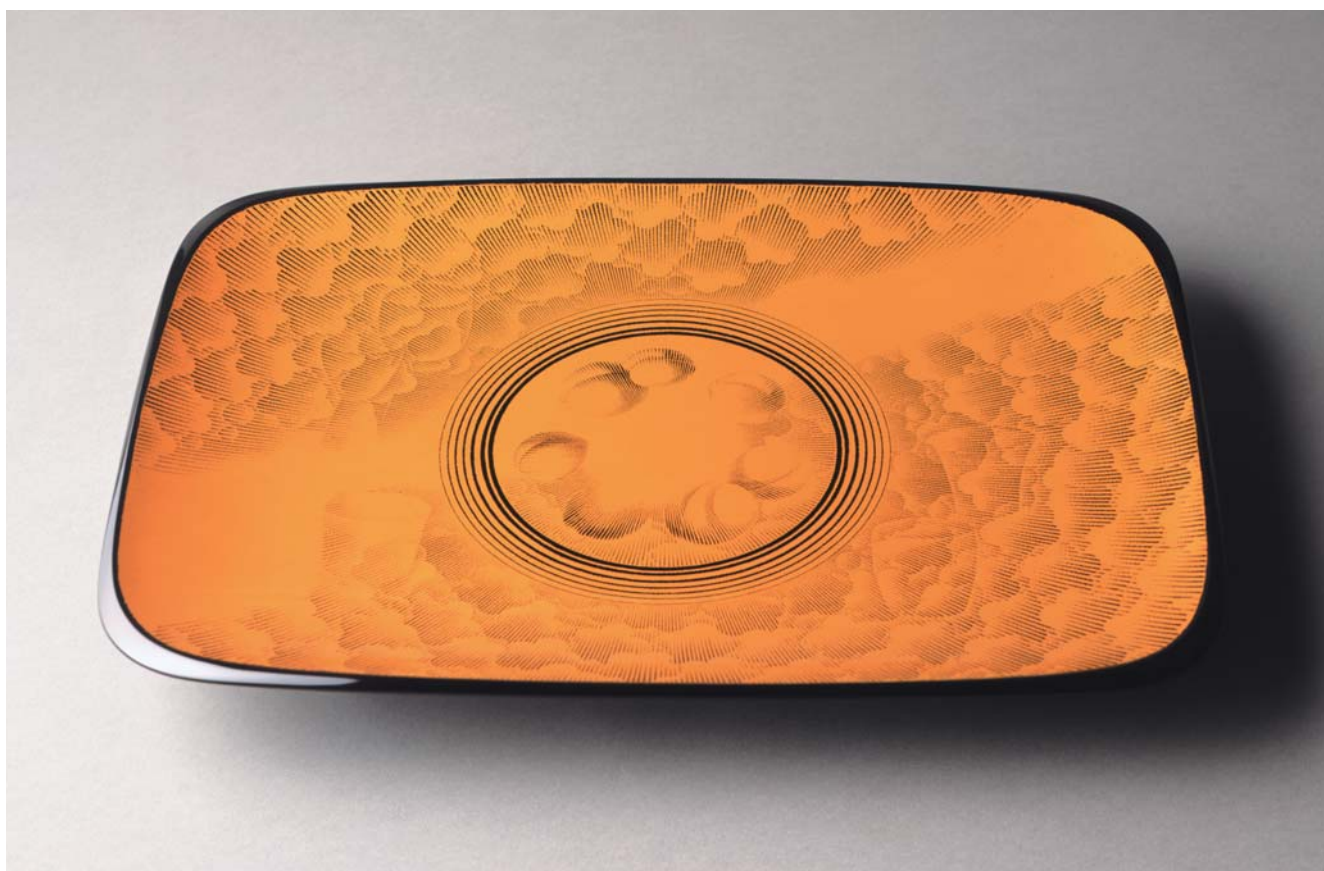


The Kagawa Museum NEWS

Vol. **35**

香川県立ミュージアム
ニュース

2016 冬



磯井正美^{さん ま ばい か ほうじゅん もり き}「蒔醬 梅果芳醇盛器」平成17年(2005)

重要無形文化財(蒔醬)保持者(人間国宝)である磯井正美は、大正15年(1926)高松に生まれ、同じく蒔醬の人間国宝であった父・磯井如真のもとで漆芸を学んだ。磯井は身近な自然から採用したモチーフを卓越した技法で自在に表現する。本作で目を引く美しい琥珀色は梅酒の色を表しているという。中央には七つの梅の実が配され、周囲には放射線状に施された往復彫りと梅花が重なるように広がる。よく見るとガラスが隠されているという遊び心も感じられる。

特別展「香川県文化功労者展」にて展示します。

CONTENTS

特集 香川県文化功労者展 現代を先駆する 魅惑の漆芸技巧

特別展 第63回 日本伝統工芸展

調査研究ノートvol.22 「伊賀小四郎像をめぐる物語」

展示室だより 古い道具と昔の暮らし／アート・コレクション／新収蔵品展

トピック 新しいミュージアムグッズ!!

香川県文化功労者展 現代を先駆する 魅惑の漆芸技巧

香川県ではこれまで文化芸術の向上または学術の振興について極めて優れた功績のある人に対して文化功労者表彰を行ってきました。

歴代の香川県文化功労者の方々をご紹介します本展では、長い伝統を有する香川漆芸の振興に貢献した7名の漆芸家を紹介します。国の重要無形文化財保持者の磯井正美、太田^{ひとし}儔、山下義人各氏をはじめ、太田加津子、國方善親、北岡省三、大谷早人各氏の漆芸作品を展示し、現代に受け継がれた香川漆芸の卓越した技巧とその豊かな表現に秘めるその原点を探ります。

香川の漆芸発祥の原点は、江戸時代末期、高松藩に漆塗師として仕えた^{たまかじぞうこく}玉楮象谷を介して、東南アジアを発祥とする漆^{ついでし}工^{ついでく}あるいは堆朱・堆黒など中国に栄えた漆工技術が香川特

有の漆芸技法に高められたことに由来します。象谷に始まる加飾技法は、およそ150年の時を経て、現在に至るまで脈々と受け継がれ、その長い年月の間には、象谷に魅了された漆芸を志す者たちの切磋琢磨により、全国に誇る唯一無二の漆芸技法として育まれてきました。とりわけ大正から昭和にかけて、西洋と日本の文化的な交流を軸として日本の工芸は美術工芸という新たなステージを得ることとなります。19世紀末から20世紀初頭のヨーロッパでは、世界を舞台に流行した“新しい芸術運動”、アールヌーヴォーが最先端の工芸を牽引していました。自然観照から抽出されるアールヌーヴォーの装飾的なデザインは、ガラスや金属など新しい素材を積極的に取り入れ、写実表現に基づいた植物や昆虫などの小さな生き物を装飾的な表現に応用したところに特徴があります。アールヌーヴォーに



磯井正美「蒔繪 梅花芳香箱」平成14年(2002)



太田儔「蒔繪 錦木 飾棚」平成3年(1991) 撮影:高橋章



國方善親「慕情」昭和42年(1967) 森繁蔵



山下義人「遙か 蒔醬 色紙箱」平成元年(1989) 撮影:高橋章



北岡省三「彫漆箱 流映」昭和63年(1988) 撮影:高橋章

は、日本絵画の伝統的な自然観にも通じる親しみ易さがあり、おのずと工芸図案にも応用されていきました。日本の工芸は、これを機に江戸時代から受け継がれてきた“漆工品には既存の図像を踏襲する”という慣例的束縛からも解放されました。伝統を尊重しながらも用途に応じて自由な発想を求めることを可能とし、より形状や用途との一貫性も図られるようになりました。こうした先人たちの創意が反映された大胆な着想は、新しい時代にふさわしい工芸の歩みの重要なファクターとなりました。

江戸時代末期から明治時代にかけて、庶民生活には欠かせない実用的な生活用具として、あるいは祝宴に彩りを添え、茶の湯の必需品として珍重された作品を生み出してきた香川の漆芸は、時代とともに多くの支援者たちによって支えられてきました。香川県文化功労者表彰は、香川の漆芸が将来へとつながるために、漆芸家たちのこれまでの功労に対する称賛と彼らに続く若い漆芸家たちの奮起を促す役割を担っています。この展覧会を通して、香川漆芸の担い手と享受する者との関係の拡充をより一層求めるものです。

(主任専門学芸員 田口 慶太)

| 展 | 覧 | 会 | 情 | 報 |

香川県文化功労者展 現代を先駆する 魅惑の漆芸技巧

12月8日(木)～12月22日(木)

開館時間：9:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日：月曜日

観覧料：一般 720円、前売・団体(20名以上) 580円

高校生以下、65歳以上、身体障害者手帳等をお持ちの方は無料

■ミュージアム・トーク

日時：12月11日(日)、17日(土) 各13:30～

場所：2階 特別展示室

参加料：無料(特別展観覧券が必要)

申込方法：事前申込不要



太田加津子「乾漆蒔醬 食籠 草花文」平成6年(1994) 撮影:高橋章



大谷早人「籃胎蒔醬 網代編 飾箱」平成6年(1994) 撮影:高橋章

※所蔵表記のない写真はすべて香川県立ミュージアム蔵

第63回 日本伝統工芸展

第63回日本伝統工芸展は、全国から出品された1,634点から選定された627点の入選作品からなり、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門で構成される展覧会です。東京展で全入選作が展示された後、全国を巡る地方展では会場ごとに作品を選りすぐり、それぞれの地域の特色が反映されます。1月2日(月)から始まる高松展では重要無形文化財保持者(人間国宝)による作品46点を含む300点の作品を展示します。なかでも一番の見どころは、入選作87点が全て展示される漆芸部門です。これは、東京を除く地方展のうちでは高松展だけの大きな特徴です。

それでは高松展の展示作品を、いくつかご紹介いたします。

きんまやばねもんはこ
「蒟醬矢羽根文箱」【写真1】は、鮮やかな色漆の取り合わせが楽しい作品。作者の磯井正美は、県内在住の重要無形文化財(蒟醬)保持者です。蒟醬とは、蒟醬剣で漆を彫り、その溝に色漆を入れて研ぎだす装飾技法で、香川漆芸の三技法のひとつです。本作では矢羽根文だけでなく、地にも蒟醬で模様を施しています。矢羽根の形は錯視を応用したもので、羽根の長さの中間点が実際の中間の位置からずれて見えてしまう錯覚を起こします。見る人を楽しませる仕掛けを展示室でぜひ体感してください。



【写真1】
磯井正美
「蒟醬矢羽根文箱」

きんまみずさし
「ふゆつばき蒟醬水指」【写真2】は、同じく県内在住の重要無形文化財(蒟醬)保持者である山下義人の作品です。凍てつく冬の闇の中に椿が浮かび上がるデザインは、季節感と共に静かな美しさを作品に与えています。同じ技法でも作品によって雰囲気は全く異なるのは、色漆のバリエーションが豊富な香川漆芸ならではの特徴です。



【写真2】山下義人「ふゆつばき蒟醬水指」

ろうびきかえでつくりそうがなかざりはこ
長野県在住の丸山浩明の作品、「蠟引楓造象嵌飾箱」【写真3】は、日本工芸会総裁賞を受賞しました。水面に波紋が折り重なるような複雑な模様をした楓の木目を活かしつつ、すっきりとした曲線で形づくられた全体の造形には洗練さが感じられます。蠟引きによって透明感を出しているのは、作者が木目を波に見立てていることからでしょうか。木工でありながら、軽やかさのある作品です。高松展では、この作品をはじめ15点の受賞作を展示します。



【写真3】
丸山浩明
「蠟引楓造象嵌飾箱」

また、展覧会とあわせて盛りだくさんの関連イベントを開催します。1月8日(日)の講演会「諸工芸とわたしの仕事」では、ガラス工芸家の白幡明氏をお招きします。ミュージアムでの伝統工芸展講演会では初めて諸工芸部門をテーマに取り上げます。講演会後には白幡氏による展示室での解説も予定していますので、お楽しみに。そのほか、日本工芸会会員による陳列品解説や、小学校4～6年生とその保護者を対象にしたワークショップ「うるしにチャレンジ!」、ボランティアトークを開催します。

日本伝統工芸展には、受け継がれてきた技術を守り伝えることと、時代に即した新しいものを生み出すことという、一見相反する趣旨が共に掲げられています。毎年恒例の展覧会で、素晴らしい技の数々と少しずつ変化してゆく伝統を間近にご覧いただければと思います。

(学芸員 一柳 友子)

展覧会情報

第63回 日本伝統工芸展

平成29年1月2日(月)～1月22日(日)

開館時間：9:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

毎週金曜日は19:30まで

休館日：会期中無休

観覧料：一般 610円・前売・団体(20名以上)490円
高校生以下、65歳以上、身体障害者手帳等をお持ちの方は無料

伊賀小四郎像をめぐる物語

明治から昭和時代にかけて香川県の教育界に大きな功績を残した伊賀小四郎(1877～1968)の蔵書や書簡類をはじめとする12,000点にのぼる関係資料。これら資料の収蔵に伴う調査などを通して見えてきた事柄をご紹介します。

高松市岡本町の奈良須池のほとりにある石像【写真1】、これは香川県青年教育の父と呼ばれる伊賀小四郎の寿像です。

伊賀小四郎は、明治10年(1877)、阿野郡畑田村(現 綾川町)に生まれました。明治30年、畑田尋常小学校の教員となり、以後大正11年(1922)まで同校に勤務しました(明治40年より校長)。その後、山内尋常高等小学校長を経て、大正14年には、香川県立実業補習学校教員養成所(以後「実教養成所」)設立と同時に、唯一の専任教諭(主事)となりました。昭和7年(1932)同所を退職、同16年まで香川県青年教育主事として勤務しました。この間、小四郎は一貫して青年教育・実業教育の振興に努め、またそれに従事する教員を多数育成しました。

当館では、伊賀家の調査を平成8年度から実施し、同家に残されていた小四郎の蔵書や書簡類をはじめとする関係資料を約12,000点収蔵しています。その資料の中から、伊賀小四郎像の建設から現在にいたる経緯をたどってみることにします。

実教養成所の同窓会誌『實教の光』第3号に、建設の過程が詳細に記されています。それによると、昭和3年10月、地元畑田村有志による「伊賀先生記念物建設」が発議され、実教養成所に協力要請がありました。この年、小四郎は教育功労者として、文部大臣より表彰されており、これを機に顕彰の機運が高まったものと考えられます。しかし、その後、建設地や建設資金の募集方法がなかなか定まらなかったため、昭和7年5月、改めて「伊賀氏功績顕彰会」が組織され、計画を前進させることになりました。その中心となったのは、小四郎の教え子たちでした。同年9月、建設地を奈良須池畔と決定して、銅像



【写真2】竣工記念絵葉書



【写真1】現在の伊賀小四郎像

建設が進められ、昭和8年6月11日に除幕式が盛大に行われました。当日の写真を印刷した絵葉書は記念品として、顕彰会員に配布されました【写真2】。

約5年の歳月をかけてようやく完成にいたった銅像は、戦時体制下の昭和18年、金属回収令により供出されました。当時の小四郎宛の書簡には、銅像の供出について記されているものがあり、名誉なこととしながらも、銅像に代わる記念碑等の設置を望む声があったことがうかがえます。現在の石像は、多くの教え子たちの要望により、昭和21年10月に再建されました。

常設展示「香川県青年教育の父 伊賀小四郎」では、収蔵資料の調査研究を通して、二度の寿像建設を実現させた教え子たちとの強い絆や、教育に向き合う姿勢など伊賀小四郎の姿を時代背景とともに紹介します。

(主任専門学芸員 野村 美紀)



【写真3】伊賀小四郎宛書簡

常設展示室1

香川県青年教育の父 伊賀小四郎

平成29年2月3日(金)～4月16日(日)

■ミュージアム・トーク

日時：平成29年2月25日(土)、3月18日(土) 各13:30～

常設展示室 1

古い道具と昔のくらし

12月2日(金)～平成29年1月29日(日)

皆さんのまわりに古い道具は残っていますか。一見、不思議に見える古い道具。でも、じっくり眺めるとそのフォルムはユニークで、なぜか心がなごみます。それらは私たちの記憶がおぼろげになっていく「昭和」を物語っているからかもしれません。

昭和初期まで、ご飯を炊く、掃除や洗濯などの行為は人の手で行われました。そして、戦後復興めざましい高度経済成長期に「三種の神器」に代表される機械が庶民の生活に浸透します。この時期をさかいに私たち日本人の生活は「スピード」時代に入ったといえます。でも、「ゆっくり」ペースの昔の道具には、生活の知恵がぎっしりとつまっています。展覧会でそんな昔の暮らしを体感してみませんか。

この展示は例年、小学3年生の学習単元「古い道具と昔のくらし」の教材として企画しているものです。また、「昭和」を懐かしみたい大人の方々もぜひご観覧ください。

(主任専門職員 織野 智子)



氷冷蔵庫

■ミュージアム・トーク

日時：12月3日(土)、平成29年1月28日(土) 各13:30～

■ボランティアによる展示解説・石臼体験

展示期間中、校外学習で来館された小学生の皆さんへ、当館ボランティアによる展示解説や石臼体験をご用意しています。事前予約制ですので、詳細は学芸課までお問い合わせください。



常設展示室4・5

アート・コレクション

3つの断章―井上孟・青峰重倫・田中岑の1930年代

平成29年1月28日(土)～4月9日(日)

1930年代は、熱を帯びた渾沌がうねりを伴い進んでいく時代でした。

戦争へと向かう中、経済不況が社会運動を激化させる一方で、大衆による都市文化は円熟をみせます。美術においては、帝展を中心とする展覧会制度が揺らぎ、芸術家たちは独自に新しいグループを結成し、シュルレアリスムやフォーヴィスムといった海外の動向に共鳴しつつ既成の価値観を打破しようとする前衛的な表現がうまれます。

本展で紹介する香川県出身の3人の作家、井上孟(1912～2005)・青峰重倫(1916～2001)・田中岑(1921～2014)は、いずれも1930年代を10代から20代という青年期に経験しています。若い画家たちの瞳には、この時代はどのようなものとして映ったのでしょうか。彼らはこの時代にどのように対峙したのでしょうか。彼らの表現には、社会や美術の新しい動向を食欲に吸収しつつ、自らの表現を模索する姿をみることができます。3人の青年画家たちは、時代を取り巻く空気を肌で感じ、胸いっぱい吸い込みながら、それを画布の上に表現しようとしていました。彼らの作品が切り取り、映し出す、彼らの生きた時代の断面を感じ取っていただければ幸いです。

あわせて、猪熊弦一郎・平山郁夫の作品も展示します。

(学芸員 瀧上 華)



田中岑「机に倚れる人」1940年

■ミュージアム・トーク

日時：平成29年2月11日(土)、3月4日(土) 各13:30～

新収蔵品展

平成29年2月4日(土)～2月19日(日) 観覧無料

当館では、歴史、美術及び民俗に関する様々な資料や作品の収集を日々進めています。これは過去、さらには現在の香川県の姿を、未来の県民の皆さんに伝えていくためのもので、ミュージアムの最も大切な活動のひとつです。開館以来の収集活動により、平成27年度末時点で301,242点の資料・作品が収蔵されました。

新収蔵品展はその成果をいち早くご覧いただくというもので、平成25年度以来の開催となります。今回展示の対象となるのは平成24～26年度に収集した資料・作品のうち、未公開のものが中心です。収集時期に着目し、テーマ・ジャンルを問わない展示はミュージアムでは珍しく、それだけに様々なものが一度に見られる得難いチャンスです。ぜひお見逃しなくご観覧ください。

なお、スペースの都合上、今回展示する資料・作品の数には限りがあります。当館の収蔵資料についてより多く、そして詳しく知りくなった方は、『ミュージアム収蔵資料目録』（平成26年度収蔵分は今年度末に刊行予定）または当館ホームページの館蔵資料データベースもぜひご活用ください。この新収蔵品展をきっかけにミュージアム収蔵品への興味を持っていただければいいな、と期待しています。

(専門職員 小野 祐平)



せんごくひでさぐんちゆうじょう
仙石秀久軍忠状 戦国時代

西讃に位置する藤目城を、仙石勢が攻めた際の軍功を賞する内容の文書。豊臣秀吉による四国侵攻後の讃岐の状況を伝える。



木村忠太「6月の丘」1987年

高松出身の洋画家、木村忠太(1917～1987)は、36歳で渡仏し70歳で没するまでフランスで活動した。光あふれる独特な作風の風景画を特徴とする。本作は木村が最晩年に描いた作品のひとつ。

トピック

新しいミュージアムグッズ!!

10月より当館1階のミュージアムショップに、新しいオリジナルグッズが仲間入りしました。グッズの開発にあたったのは学芸課の若手スタッフ。「グッズを通して収蔵品の魅力をもっと知ってほしい」、「若い女性の手に取りたくなるかわいいものを」、そんな意見を出し合いながら、何度も打ち合わせを重ねました。たくさんのアイデアの中から実現したのは、当館所蔵の美術作品をモチーフにした5種類のグッズです。

今回特におすすめしたいのが、新登場のアイテム、マスキングテープ。型絵染の人間国宝、鎌倉芳太郎の着物「紅型松竹梅文長着」の文様をモチーフとしました。上品な小花柄がかわいらしく、使いやすいデザインです。シンプルな小物をデコレーションしたり、手紙を彩ったり、ちょっとしたメモを貼るためにも。いろいろな使い方で楽しめるグッズです。

オリジナルグッズは、他にもたくさん。来館の記念やおみやげに、ぜひお手に取りください。

(学芸員 一柳 友子)



打ち合わせの様子

新商品

- ジョルジュ・ルオー「モニック」はがき 120円
- 藤川栄子「シュークリームのある静物」はがき 100円
- 鎌倉芳太郎「紅型松竹梅文長着」マスキングテープ 410円
- 鎌倉芳太郎「型絵段染山水文上布長着」一筆箋 390円
- 福岡青嵐 付箋セット 500円 (金額は全て税込)

特別展「第63回 日本伝統工芸展」関連行事

●講演会「諸工芸とわたしの仕事」

「職人」と自ら称する白幡明先生は、ガラス工芸の中でも平面研磨と切子の技術を用いた作品で高く評価されています。制作秘話や伝統工芸の今についてお話しいただきます。

日 時：平成29年1月8日(日) 13:30~15:00

※終了後に展示解説があります。

(特別展観覧券が必要)

場 所：地下1階 講堂

講 師：白幡 明氏

(ガラス工芸家・日本伝統工芸展特待者)

定 員：230名

参 加 料：無料

申込期間：受付中、定員になり次第終了

申込方法：「講演会・学芸講座の申込方法」をご覧ください。



くしめれんべん ふたもの
白幡明「割貫蓮弁の蓋物」

●子どものための伝統工芸鑑賞事業

ファミリー・ワークショップ「うるしにチャレンジ！」

香川漆芸三技法のひとつ「蒨醬(きんま)」を用いた作品づくりにファミリーで挑戦!

日 時：平成29年1月14日(土)

①9:30~12:10 ②14:00~16:40

場 所：地下1階 研修室

講 師：佐々木 正博氏(漆芸作家)

対 象：小学4~6年生と保護者

(1組につき、保護者は1名のみ)

定 員：各回36名

参 加 料：無料(ただし保護者の方は特別展観覧券が必要)

申込期間：12月1日(木)~12月19日(月) 消印有効

申込方法：「ワークショップの申込方法」をご覧ください。



学芸講座

研修室 先着70名 聴講無料

●「香川県青年教育の父 伊賀小四郎」

香川県の青年教育を切りひらき、その振興に尽くした伊賀小四郎の生涯と事績をたどります。

日 時：平成29年2月5日(日) 13:30~15:00

講 師：野村 美紀(主任専門学芸員)

●「ファッション写真と20世紀美術」

19世紀中期、写真の発明はその後の産業発展に大きく寄与しました。なかでも服飾の流通への貢献は、「流行」を生み出し、さらには20世紀美術にも多大な影響を及ぼしました。ファッションの歩みと写真そして美術との関わりについて概説します。

日 時：平成29年3月5日(日) 13:30~15:00

講 師：田口 慶太(主任専門学芸員)

※申込受付中、定員になり次第終了

※申込方法は「講演会・学芸講座の申込方法」をご覧ください。

ミュージアム・ワークショップ

●「高松張子づくり」

香川県の伝統的工芸品「高松張子」の「奉公さん」を作ります。

2日間連続のワークショップです。

日 時：平成29年2月18日(土)・19日(日)

2日間連続 各日13:30~16:00

場 所：地下1階 工作室

講 師：当館職員、当館ボランティア

対 象：中学生以上 ※2日間ともに参加できる方

定 員：20名

参 加 料：500円(材料費)

申込期間：平成29年1月10日(火)~1月26日(木) 消印有効

申込方法：「ワークショップの申込方法」をご覧ください。



瀬戸内海歴史民俗資料館 れきみん講座

先着40名 聴講無料

●「小豆島霊場調査報告」

瀬戸内海歴史民俗資料館では、平成26年度から3年間、小豆島霊場調査を行ってきました。調査を通じてわかってきた、小豆島霊場の特色とその歴史を紹介します。

日 時：平成29年2月4日(土)

13:30~15:00

場 所：瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室

講 師：佐々木 卓也(専門職員)

申込期間：平成29年1月4日(水)から、

定員になり次第終了



れきみん講座の申込方法

電話・はがき・FAX・「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。

はがき・FAXの場合は、氏名、電話番号、講座名を明記してください。

申込先：〒761-8001 高松市亀水町1412-2 瀬戸内海歴史民俗資料館

TEL 087-881-4707 FAX 087-881-4784

大阪市立自然史博物館巡回展

●イチ押し!瀬戸内海の自然トピックス

観覧無料

大阪市立自然史博物館が、2012年以来、瀬戸内海沿岸の博物館・水族館・研究機関と連携し、瀬戸内海の自然の調査研究や資料収集、観察会を実施してきた中から、「イチ押し!」だと思ふ瀬戸内海の特徴的な自然をトピック形式で紹介する巡回展。

会 期：平成29年1月14日(土)~2月5日(日)

開館時間：9:00~17:00

※入館は16:30まで

休 館 日：月曜日

場 所：瀬戸内海歴史民俗資料館

第9・10展示室



サワラ模型

講演会・学芸講座の申込方法

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。

はがき、FAXの場合は、氏名、電話番号、講演会名・講座名を明記してください。

ワークショップの申込方法

往復はがき(1枚につき2名まで)、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。往復はがきの場合は、氏名(ふりがな)、住所、電話番号、年齢(学年)、ワークショップ名を明記してください。申込者多数の場合は抽選となります。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課

TEL 087-822-0247 FAX 087-822-0049

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県ホームページ「電子申請・施設利用申込」

香川県ホームページ「お役立ち情報」のトップ「かがわ電子自治体システム」から「電子申請・届出サービス」をクリック



カフェ ポット ミュゼ

限定冬メニュー

「カキフライ定食」980円(税込)

サクサクでジューシーなカキフライをぜひご賞味ください!



写真はイメージです

ミュージアムショップ

新しいオリジナルグッズが仲間入りしています。ぜひお立ち寄りください!

(詳細は7ページ)



香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
http://www.pref.kagawa.lg.jp/kmusem/



【分館】瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
http://www.pref.kagawa.lg.jp/setorekishi/



【分館】香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10-39
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807

